

舞台は世界だ!

# Go! Global

*Blue sea!*



*Crisp air!*



*Good Friends!*



## Brand-New! Vol.2

KANTO GAKUIN MUTSUURA  
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

2018 KGM  
グローバル人材  
育成プログラム  
レポート Vol.14

高さ28mを直下する勇壮な瀑布、裏見の滝とも呼ばれる遠軽町「山彦の滝」

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

# 新企画！北海道研修

## 「北海道オホーツク・世界遺産知床大自然ツアー」

国内研修の「京都・奈良研修」に次ぐ、「北海道研修」が8月に実施されました。この研修にも本校独自の内容が盛り込まれました。

研修へは各自がそれぞれの感性と興味や関心でテーマを決めて参加します。研修から帰ってくると感性は一層研ぎ澄まされています。見聞きしたものは心に刻みこまれて次の学びへの啓発となり、また、人としての豊かさが養われていきます。

自らの意志で取り組む研修は深い学びをもたらしています。

### 知床の現在の環境と今後の課題

知床では、現在「エゾシカ」が増加しており、高密度状態が長く続き、問題になっています。今の状態を放っておくと、シカが好んで食べる植物や木がなくなってしまうと同時に、荒れた土地を好む外来種が侵入しやすい環境を作ってしまう原因にもなります。現在、過去のデータをもとに、エゾシカの管理をどのように進めるかについて議論する場である「知床世界自然遺産地域科学委員会」に対し知床財団は積極的な情報提供や提案を行っています。

また、知床では現地の人々が言うように、ヒグマがしばしば農地に侵入し、農作物被害が発生します。国立公園内では日常的に「見えてしまうヒグマ」を求めて多くの人々が現地を訪れ、必要以上にヒグマに近づいて写真を撮ったり、ヒグマに食べ物を与えたり生ゴミを捨てたりする利己主義の人が後を絶って

いないということです。知床は今、いつ人身体事故が起きてもおかしくない状況であります。ヒグマは一度人の食べ物の味を覚えると、人から食べ物を奪おうと積極的に近づいてくることもあり、そんなヒグマを殺さなければいけない場合があります。そうならない様に現在は一般的な駆除の在り方を見直し、花火やゴム弾を作りクマを追い払ったり、ヒグマをさそうエゾシカの死体や不法に捨てられたゴミの除去といった管理活動を町と協力して行っています。更に、ヒグマの出没を制限したり、まったく新しい利用制限を行政や地元関係者と協力しながら導入、実施しています。

今回の北海道研修に参加して知床を訪れたことで、これらの問題・課題を意識して「人」と「動物」とのこれからの未来を考えるべきだと思いました。(4年生女子)



特別保護地域ルジャに出現親子ヒグマ

### 個人の研究テーマの一例

- ・石器作り体験
- ・小清水原生花園
- ・北海道で見た動物
- ・北海道の動物たち
- ・北海道 道東知床ツアー



遠軽町埋蔵文化センターで石器作り



小清水原生花園を走るJR釧網本線



カイト付きで行くヒグマ生息地知床壱湖



世界遺産知床半島を巡る知床遊覧船

- #### 北海道研修あなたにとってのベスト3
- 1位★★★★★ 大平高原星空ツアー
  - 2位★★★★★ 知床半島ツアーとクルージング
  - 3位★★★★★ 白滝ジオパークでの石器づくり
  - ★★★★★ 旭山動物園
  - 5位★★★★ 江面ファームでの農業体験とBBQ

### 北海道の人と自然のかかわり

今回私は実際に現地に行くことによって自然を直に感じる事ができました。そして研修を続けるうちに北海道の自然には人が深く関わっていることに気がきました。研修の中でも私は二日目の知床国立公園のことが印象に残りました。この公園ではクマのすみかにお邪魔するといった考えの基にクマの繁殖期には国の認定ガイドの同伴が必要になっていました。このような現地の方々の活動以外

にも都会に住む私たちにできる活動に「しれとこ 100 平方メートル運動」というのがあります。この活動は森に木を植えることで緑を増やすというものです。このような活動から普段私たちが感じている自然は失われつつあることが分かりました。この事実について私たちは今一度考えなおす必要があると私は主張します。(4年生男子)

空港からしばらく走り見えてきたのは“天に続く道”。本当に道が青い空に続きこのままバスを走らせると空に昇っていくのではないかと錯覚するほどでした。北海道の広さを目の当たりにした瞬間でした。

研修での「あなたにとってのベスト3」を聞いたところ、第1位は2日日夜「大平高原の星空ツアー」でした。ジオクラブの方々が夏の星空に現れる星座を詳しく教えてくださいました。地元の方々もここ数年見たことがないと驚くほどの満天の星空、天の川の美しさの中を横切る複数の流れ星に大きな歓声があがりました。国際宇宙ステーションまでも肉眼で見ることができました。生涯忘れることのできない体験になったことと思います。(引率教員)

# 新企画！台湾研修

## いよいよ出発！

台湾の大学に進学している卒業生がここ数年増えています。今までも「in Taiwan 未来のグローバル人材育成塾」(台湾サポートセンター主催)に参加した生徒がその機会をきっかけに台湾の大学への進学を決めていました。この研修では全国各地の高校生が集結し、台湾の高校生と交流を通してお互いの国について学び、英語で講義を受けるなど真のグローバルを体感する機会が与えられていました。

新企画の台湾研修は、更に台湾を知り、そして台湾を通して世界を知るきっかけとなるはずです。そして、現在自分が過ごし学んでいる世界の小ささ、狭さを感じ、間近に迫っている将来の変化に対応できる礎になるに違いありません。

新企画の研修では、台湾の高級中学校の生徒との交流やその生徒の家庭への滞在を通して、未来を担う者たちが異文化相互理解を深め国際感覚を養う良い機会となるでしょう。高級中学の生徒は英語を話す生徒も多く、日本の特にサブカルチャー文化(漫画・映画・アイドルグループなど)に詳しい生徒も多いようです。台湾国内の大学や専門学校に通う

学生と行動を共にし、街を巡りながら台湾を深く理解する場も与えられています。また、JTB 台湾の社長さんからの台湾の歴史と深い親日感情を解き明かす講義では、台湾と日本の関係をより深く知るとともに経済成長めざましい台湾やアジアの社会の動きの変化についても学ぶことができるでしょう。



対日交流では台湾第一位の開南大学



台湾・台北のランドマーク「台北101」

## 更に進化！ セブ島語学研修 8 Weeks



DAREDEMO HERO スタディーツアー

2019年度、GLE コースが Start します！ 私たち世界人類の切なる願いは、「平和な社会」を増進すること、「持続可能な社会」の維持です。そのような未来社会の創造に貢献する志をもった人に育ってほしいと考えています。GLE コースでは、社会への貢献を

目指す心と高い自己実現力を育てることを目標としています。

この GLE コース参加者に課せられているものの一つに Study Abroad Programs があります。3年生から5年生の間に必ず短期(ターム)又は1年間の留学を各自が適切な出発

時期を決めて参加していきます。その研修には、セブ島語学研修8 Weeks を選んでも構いません。Study Abroad の目的は英語圏での一定期間以上の生活で、

①「言いたいこと」と「実際に言えること」との間にあるギャップを経験し、それを効果的に言語習得へつなげることで、

②想像を超える困難に対して、言語を用いて主体的に関わることで、「生き抜く力」を養います。

セブ島語学研修8 Weeks は、1日8時間の英語漬けの日々が続きます。研修期間の始まりと終わりに現地の高校を訪問し、自分の語学力のレベルをチェック、中盤には高校生との交流も行います。ここでは、フィリピンやセブ島と日本文化の違いや歴史的背景からくる英語力の違いについて気づくことでしよう。毎週末には、町へ買い物に行くこともありますが、ソーシャルスタディーツアーにも参加します。このツアーは「受動的」になりがちな単なる観光ではなく、「能動的」な知的好奇心を促す「アクティブラーニングツアー」です。また、特別ボランティア活動へも参加できます。これは、単なるボランティア活動ではなく、「使える英語による異文化交流」です。学校の授業を特別アレンジしてグループ・プレゼン授業を行います。ここでは、ボランティア団体の子供達との交流で用いるプレゼンを作成していきます。トピック・内容・役割分担はグループで話し合って決定していきます。「使える英語」=「道具としての英語」を体感します。



ジブニー、現地の人ならではの乗り方



セブ島周辺の小さな島々を結ぶ舟



# 初のアラスカ



第4回アラスカ研修が近づいてきました。12月1日には成蹊大学の藤原均先生にご来校いただきオーロラ発生の仕組みなどを教えていただきました。さて、Go! Global Vol.13に引き続き第3回アラスカ研修で最も印象に残った「初めての体験」を参加者に語っていただきました。これから参加する人も一層ワクワクすると思います。

アラスカは雪の粉が常に舞っているので、口で呼吸すると苦しくなり、髪の毛が凍りました。ずっと目を開けていると目が凍りそうになるほどです。雪でスプラトゥーンをしたり、コーラを雪で冷やしたりしました。仲の良い友達と楽しさは100倍でした。(4年 T.O)

とても速く、最初の2~3分で凍えてしまうかと思ったほど寒かったです。また、積もっていた雪が舞い上がり顔にかかったので、さらに冷たさを感じ、そりに乗っていた4人のうち2人が放心状態になってしまいました。犬たちはとても優しく走っている最中に何回も私たちの方をチラチラと振り返り、安全を確認してくれているように見えました。

私がアラスカ研修で初めて経験したことは犬ぞりです。それは15頭ほどの犬に目的地まで引っ張ってもらうものですが、その速さは

アラスカは寒かったです、とても楽しくて充実したアラスカ生活でした。(5年 A.N)



## 2018年度2学期からの留学生

私はレオニーカウルケです。ドイツ人です。ピアノとバイオリンをひいています。今は、10ヶ月Kanto Gakuin Mitsuuraでのりゅうがくせいです。ぶかつはきゅうどうに入りました。来年ドイツに帰ったら、2年間学校に行き、終えて、生物心理学を勉強するために大学に行きます。

Hello, my name is Ian Eli Villa Terrazas. I'm 18 years old. I arrived in Japan in August, and since then every day in Japan has been an adventure. During my school life here in KGM, I have made really good friends. I joined the rugby club and I had really good experience. It is the first time I have played rugby, which is tough but really amazing. I'm going to keep practicing Japanese to make more new friends!

こんにちは!はじめまして。私の名前はシャルロットです。十五さいです。南フランスから来ました。私の趣味はハーブすることです。日本中、たくさんの所におとずれてみたいです。



### Go! Global Selfintroduction

Charlotte Galvaire

Leonie Kaulke

Ian Eli Villa Terrazas

## 校長先生のメッセージ

今、日本の子どもたちの学び方に改革が唱えられています。「主体的で対話的で深い学び」です。グローバル化が進んで留学生が増え、海外に限らず日本国内でも外国人材との協働が当たり前となる近未来を眺めれば当然のことでしょう。「定型的な知識と定型的な技能を用いて問題を解決して行くこと」への習熟を主として学習や学力と呼んだ今までの日本式は万能ではなくなります。知識の習得を否定しているわけではありません。知識がなければ、眼前の問題を解決することができません。それ以前に危険な状況を回避することもできません。しかし、たくさんの知識を学んでも使い方を知らなければ、あるいは、それを共有し協働で解決を図るための十分な意思疎通力とそのためのも動機がなければ無意味なのです。学ぶということは、学んできた知識と新たに学ぶ知識、得る情報、経験的な知識を再構成して、使える知識や技術に変えて行くことです。同時に指示を待たずに主体的に、新たな課題を見出すこと、そうして客観的に自分の成長に気づき、自分の中に新しいロードマップを持つことです。2015年からの六浦の「Go! Global」は気づきのためのプログラム。ゆえに選択制であり、または、自ら探して参加実践する研修なのです。これ自体が「主体的で対話的で深い学び」の場なのです。

(黒畑勝男 2014年入職就任)

The school website has been redesigned.

コンテンツが充実し、より学校の情報をお伝えしやすくなりました。

関東学院六浦



Instagram(インスタグラム)も始めました。

